

南草津エリア まちづくり推進ビジョン (みなくさビジョン) 【概要版】(案)

資料1

1. ビジョン策定の背景と目的

JR南草津駅周辺エリアは、駅開業や立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開学を契機に、市街化が進展し、多様な都市機能が集積し、多くの人が交流する活力ある市街地として発展してきました。

一方で、交通渋滞の慢性化の解消が課題となっており、地域資源の活用が十分ではなく、草津田上ICや草津PAなどの周辺エリアの地理的優位性も十分に生かし切れていません。

そのため、従来の駅周辺エリアに限らず、その周辺の地域において、活力や魅力をより一層高めていくため、今後のまちづくりの推進の方向性を定めるビジョンの策定を行うこととしました。

なお、本ビジョンは10年後の令和12(2030)年度を目標年次として設定します。

2. ビジョンの対象エリアと位置付け



図1 ビジョンの対象エリア

本ビジョンは、JR南草津駅周辺とその周辺の地域も含めたエリア(矢倉、志津南、玉川、南笠東、老上、老上西学区)を南草津エリアと位置付け、対象エリアとします。

上位計画である「第6次草津市総合計画」および「草津市都市計画マスタープラン」と連携・整合を図りながら、将来像実現に向けた個別施策の展開として、草津駅周辺では「中心市街地活性化基本計画(第2期)」、市街化調整区域を中心とした郊外部では「草津市版地域再生計画」が策定されている中、本ビジョンはJR南草津駅およびその周辺である南草津エリアの計画を策定することにより、市内14学区全体をカバーします。

また、市全域が対象である「草津市立地適正化計画」および「草津市地域公共交通網形成計画」は、「草津市版地域再生計画」とともにコンパクトシティの実現に向け連携・整合を図り策定されており、これらの計画や「草津市健康都市基本計画」とも連携・整合を図ります。

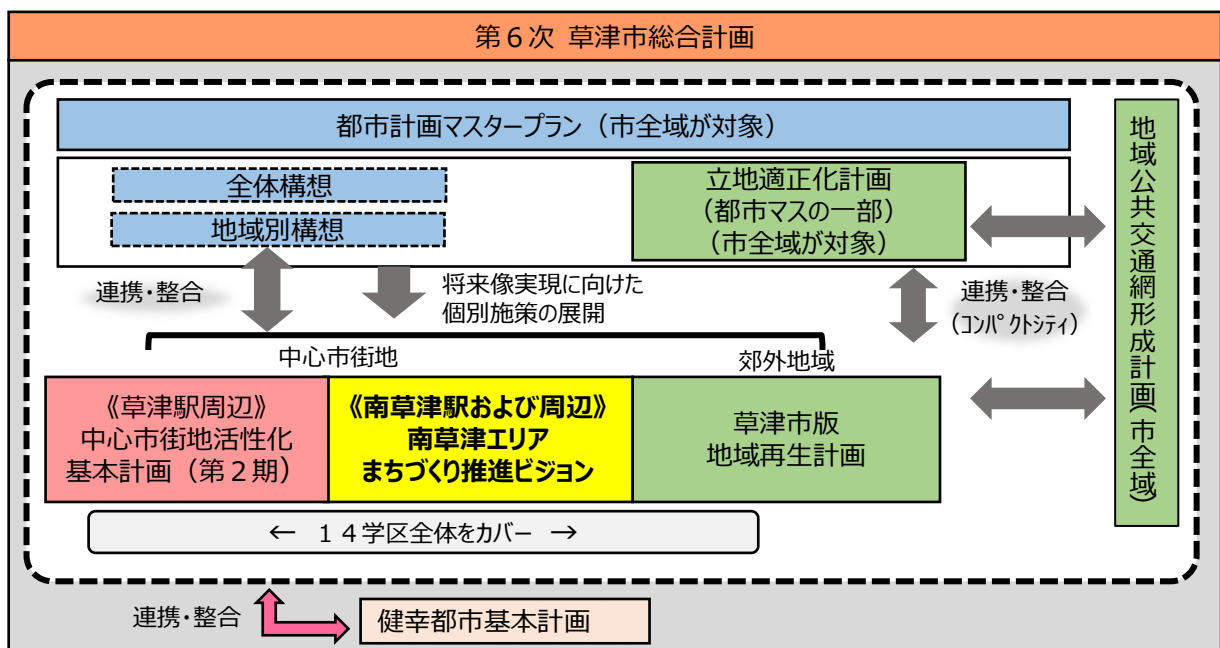


図2 ビジョンの位置づけ

3. 施策の体系（課題～将来像・目標～基本方針～施策）

南草津エリア の課題

① 大学や企業等の集積や地理的優位性を生かした活力あるまちづくりが必要

② 誰もが安心して住み続けられる住環境の向上と地域の活性化が必要

③ 魅力的な都市空間や地域資源の活用による多様な交流活動の促進が必要

④ 総合的な道路網の整備や交通の直視が必要



あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち「みなくさ」

南草津エリアの将来像・目標

目標①
大学・企業・地域の活力が
持続的にあふれたすまち

目標②
誰もが豊かな環境と利便性
を享受し安心・安全に住
み続けられるまち

目標③
充実した都市空間・交通
環境で多様な交流が生ま
れるにぎわいのあるまち



基本方針

活 力

①大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進

住環境

②豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境の形成と地域主体によるまちづくりの推進

交 流

③JR 南草津駅周辺やびわこ文化都市公園周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進

南草津エリアの課題を踏まえ、本ビジョンにかかげる将来像、目指すべきまちづくりの目標、まちづくりを進めていくうえでの基本方針および施策を以下に示します。

	施策	ゾーニング
➤	ア.立命館大学等の大学・企業等の地域に開かれた利活用の促進	東の拠点
	イ.通勤・通学等の利便性向上	連携拠点
	ウ.大学、企業等との連携による地域活動・交流の促進	中心拠点 東の拠点 地域活性化
	エ.幹線道路沿道における産業振興に寄与する土地利用の推進	東の拠点
	オ.市街化調整区域における土地活用の検討	西の拠点 東の拠点
➤	ア.立地適正化計画に基づく居住誘導と利便性の高い住環境の形成	地域活性化
	イ.空き家の適正管理と有効活用の促進	地域活性化
	ウ.特定区域における計画的な土地利用の誘導	地域活性化
	エ.建築協定・緑地協定等による質の高い住環境の形成	地域活性化
	オ.河川改修の促進や避難環境の向上による防災まちづくりの推進	地域活性化
	カ.地域まちづくりセンターの更新と地域再生拠点の形成	地域活性化 連携拠点
	キ.歴史・文化資源の活用促進	地域活性化 連携拠点
	ク.琵琶湖の資源を活用した地域振興、観光事業の推進	西の拠点
	ケ.琵琶湖岸、草津川、十禅寺川・狼川における親水空間形成	西の拠点 連携拠点
	コ.田園環境の保全と農業資源を生かした交流促進	中心拠点 西の拠点
➤	ア.立地適正化計画における都市機能誘導施設の立地誘導	中心拠点
	イ.ＪＲ南草津駅周辺における魅力ある滞留・交流空間の創出	中心拠点
	ウ.ＪＲ南草津駅周辺におけるウォーカブルなまちづくりの推進	中心拠点 連携拠点
	エ.バリアフリー化事業の推進	中心拠点 連携拠点
	オ.自転車ネットワーク計画の推進	中心拠点 連携拠点
	カ.ＪＲ南草津駅周辺におけるまちなみ形成と情報発信機能の強化	中心拠点
	キ.草津パーキングエリアと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化	東の拠点 連携拠点
	ク.都市計画道路山手幹線の整備促進	連携拠点
	ケ.未着手都市計画道路の早期実現	連携拠点
	コ.地域や関係事業者と連携した円滑な交通ネットワークの確保	連携拠点
	サ.未整備公園の整備や活用促進	地域活性化

4. ゾーニング

南草津エリアにおいて施策を展開していくゾーニングを以下に示します。



図3 ゾーニング図

5. ビジョンの推進体制と見直しについて

本ビジョンに基づき各施策を推進していく中で、南草津エリアのまちづくりにおいて波及効果が高く、早期に実現可能と考えられる施策を重点連携施策として位置付け、南草津エリアのまちづくりを進める上での契機としていきます。

プロジェクトの実施に向けた研究会やプロジェクトの推進体制を構築し、大学・企業、地域、関係団体および行政などの連携体制のもと重点連携施策に取り組み、南草津のまちづくりを進めていくことを目指します。

本ビジョンの推進にあたっては、各施策に基づく事業やプロジェクトの進捗状況を把握するとともに、社会情勢や南草津エリアの変化に対応していく必要があります。

今後は、まちづくりの進捗状況などを勘案し、概ね本ビジョンの中間年次となる5年程度を基本としたPDCAサイクルを取り入れ、ビジョンの見直しを検討していきます。

なお、ビジョンの見直し検討においては、大学・企業、地域、関係団体等と連携しながら取り組みます。

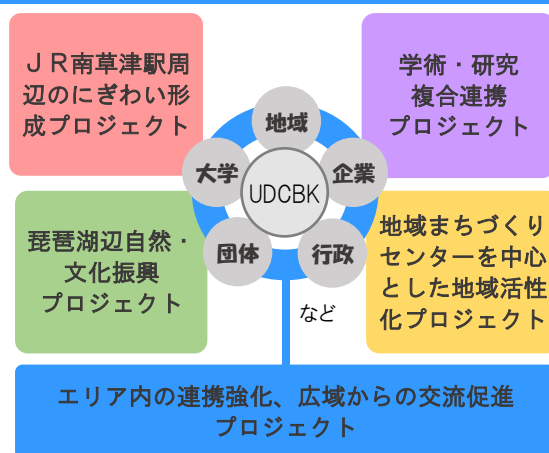


図4 プロジェクト体制



図5 PDCA サイクル